



## 大学のキャリア教育と メソジスト教会



広島女学院  
院長・学長 三谷 高康



日本の教育は、幼児教育から大学教育まで、子どもの発達段階に合わせて「自分らしく生きる力」の育成に重きを置いています。そして、その成長過程で精神的・社会的な自立を促すキャリア教育が行われてきました。例えば、幼稚園では集団における自分の役割の理解や、進んで自分でやってみる経験を通じて、自発的で主体的な活動を促しています。小学校ではそれに社会性を加え、関心や意欲といった自主的な態度を養う教育を進めています。中学校になると、将来の働き方を考え、進路の選択に向けて計画的に取り組む姿勢を促し、勤勉観を育てることに努め、高校では、勤労観と職業観などの価値観を確立し、卒業後の進路を決定させる教育を行っています。

大学に入学すると、社会に出る前の最終的な教育機関として、教育課程の中にキャリア教育の科目を設置し、大学教育の全般にわたってキャリア意識を確固としたものにすることを目指しています。

広島女学院大学の新しい全学必須科目である「ライフキャリアデザイン」は特定の職業に就くための知識や技能を身につけさせる職業教育ではなく、社会の中でまず自分が役に立つ経験をし、人生観を醸成しつつ、生き方を考え、そうした実践と理論を段階的に積み重ねて、将来に従事する職業への意欲を高めていく教育です。

もともと時代の変化とともにキャリア教育に求められるものも変わっていきます。近年ではAIデータサイエンスのようなテクノロジーの急速な発達やライフスタイルの多様化が学生の価値観形成に大きく影響を与えています。

それに対して、しっかりとしたアイデンティティーを形成することを「ぶれない個の確立」と私どもは定義していますが、しっかりと自己肯定感を維持し、社会や環境の変化に応じて、自分を主体的に対応させていく柔軟なキャリア形成を目指しています。同時に、給与や昇進、地位、権力などにとらわれず、自由や成長、仕事への満足度などに重きを置く生き方を育てています。

「プロティアン・キャリア」と呼ばれるキャリア形成が注目を集めていますが、広島女学院大学の目指すキャリア教育は「プロティアン・キャリア」と共通した部分が少なくありません。

しかし、一方ではプロテスタント教会では「天職」という概念が伝統的にあります。今でこそあまり語られなくなりましたが、魂の救済の有無は神からあらかじめ定められていると提唱する「予定説」に立って、人の職業は神から与えられたものとされ、「天職」と呼ばれてきました。それゆえ、勤勉によって得られた富や成功も肯定的にみられ、従来利益を追求するのは卑賤であるとしたカトリックの教義と違って、カルヴァンが商業、特に、利子の獲得を認めたことで富裕層の商工業者層の精神的な支柱となりました。市民層が心置きなく経済活動に進むと資財は蓄積され、資本となっていきます。これが資本主義の始まりとマックス・ウェーバーは著書「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」で説いています。さらに天職の教えから専門性が重視され、プロフェッショナリズムの意識が誕生しました。

メソジスト教会の創立者ジョン・ウェスレーは、アルミニウスの信仰理解に影響を受け、全ての人々は救済に招かれていると考え、誰でも信じる者は救われると唱えました。そして一人一人の可能性を見出し、それを育み、社会で活躍する機会の重要性を説き続けました。

広島女学院大学の「ライフキャリアデザイン」のコースの背景には、こうしたメソジスト教会の伝統に立った教えが生きているように感じます。

広島女学院のキャリア教育

「キャリア」とは「人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」をいいます。

広島女学院では、キリスト教精神を基盤とした人格教育を柱に、それぞれの年齢に合わせた教育活動を行っています。今回の特集ではその一部をご紹介します。

大 学

「ライフキャリアデザイン」の導入

総合学生支援センター長 市川 知美

本学では女性の一生涯を視野に入れた「ライフキャリア教育」に力を入れています。全学科共通の基礎科目、ライフキャリア科目、学科専門科目での学びを4年間積み上げていくことで、人生の土台作りを行い、生涯にわたって自分らしく豊かな人生を送るための幅広い知識・技能、思考力、判断力、問題解決力、コミュニケーション力等を修得していきます。その中心となるのが全学科共通の「ライフキャリア科目」です。「キャリアプランニング」や「女性とライフキャリア」といった必修科目に加え、各学科の分野を幅広く学べる科目群です。2024年度入学生からは従来のキャリア教育科目で培ったノウハウを時代のニーズに合わせて展開し、「ライフキャリアデザインI~VII」(1~4年次)という新科目を導入しました。

に向けた基礎力を4年間かけて身につけていきます。特に、これまで別々に行ってきたキャリア教育とキャリア支援をこの授業で融合させ、教職員協働による学生の教育・支援を4年間継続して行う点が特徴です。学生はペアワークやグループワークを通して他者と関わり、目的を共有しながら仲間と共に協働する経験を積み重ねます。これらの学修活動を通じて人との関わり方が自然と身につく、自分の強みを発見する機会になります。また、仲間と楽しみながら学び合うことで新しいことにチャレンジする力や自信にも繋がります。協働活動の後は学修の成果を人に伝える活動を行います。互いに意見や感想をフィードバックし合い、より広い視野で客観的に物事を考える力を養い、今後の改善に生かしていきます。

この科目は学生の主体的な学びに重点を置き、「自分を知る」「他者と関わる」「社会と関わる」「人生を描く」という4つのステップを踏みながら自己のライフキャリア確立に

「ライフキャリアデザインI~VII」は、学生一人ひとりの夢の実現に向けたキャリア教育として、新たなスタートを切りました。学生達の今後の成長が楽しみです。

「ライフキャリアデザイン」での取り組み

生活デザイン学科 吉田 順子

前期「ライフキャリアデザインI」で授業の到達目標として掲げたのは、①自分を客観的に理解することができる、②自分の役割を理解し行動することができる、③自分の考えを持ち他者に伝えることができる、の3項目です。特に入学したての1年生対象の授業のため、学内における人間関係をスムーズに構築していくためにはコミュニケーションの機会を増やすことが必要と考え、グループワークを多用しています。前半の回では、社会人へと移行する段階にある大学生として自らのキャリア形成を考えるときに必須となる、自己分析と他者理解のためのワークを行いました。対話が広がるようにユーモアを交えつつ他者との違いに気づくようなトピックを取りあげました。リラックスした雰囲気の中で対話を進め、履修生は人それぞれに異なる価値観や感じ方があることに触れていきます。自分が他者と異なる意見を述べることに不安を感じている学生も少なくない昨今、他者との違いは自然なことであり、それこそが個性だと気付いて欲しいという願いも込めています。後半の回は、グループワークによる「大学探求活動」が目玉のプログラムです。入学したての新鮮な視点で、女学院大学の歴史や人々、学び、活動などを調べ、各グループが思い思いのテーマを設定しました。11月の「あやめ祭」に向けて、調べた成果をどのように発表するかを

検討し、後期の成果物作成へとつなげていきました。

後期「ライフキャリアデザインII」の到達目標は①協働作業において計画的に物事を遂行することができる、②自分の意見を伝えることができる、③目的達成に向けて行動することができる、の3項目です。前半の回では、各グループが前期から準備を進めてきた「大学探求活動」をポスターなどの成果物にまとめ、発表の準備を進めていきました。各グループには、工程管理や役割分担を考えながら、計画的に物事を進めることが求められ、また、それぞれの成果を来場者により分かりやすく伝えるための工夫に知恵を絞ることも必要となります。「あやめ祭」当日には、学科の特色を反映した展示物が並び工夫を凝らした発表が行われ、多くの来場者でにぎわいました。

さて、学生たちはこの活動から何を学んだのでしょうか。次のステップはグループ内で省察を行い、未来へのヒントを見つけ出すことです。そのために、後半の回では活動で工夫したことや次につなげることを整理し活動報告会を行います。やりっぱなしにせず、PDCAを回しながら自己の成長につなげていきます。これも「ライフキャリアデザイン」の目的のひとつなのです。



ポスターは字体にもこだわる



あやめ祭当日のプレゼンテーション



学科の特色あふれる展示物



## 広島女学院のキャリア教育

## 中学高等学校

## 進路指導部の取り組み

進路指導部長 國岡 健太郎

生徒は中高6年間の学びの中で、将来自分のやりたいことや、学びたいことを見つけ、大学へ進学していくこととなります。進路指導部では高校進学を控える中学3年生の時期から生徒が進路について考える機会を多数用意していきます。中学3年生の1年間で自分の明確な進路を決定させることができる生徒はそう多くはありませんので、高1～高3も継続して生徒へ考える機会を用意しています。今回はその中で今年度実施した2つの取り組みについてご紹介します。

1つ目は大学教員による模擬講義の実施です。生徒は自分の身近な大学や自分の知っている大学の中から進学先を決めようとする場合が多く、生徒の選択肢を広げてもらいたいという思いがあります。そのため、自分の知らない大学や学問に出会う、自分には遠い存在だと思う大学を身近に感じる機会としたいと考えています。1学期には中3～高3生徒の希望者対象に京都大学大学院工学研究科の先生から講義をしてもらいました。研究をしていくことの魅力や醍醐味について学ぶことができました。また、2学期には同志社大学生命医科学部の先生から「地球温暖化」、武庫川女子大学環境共生学部の先生から「生物多様性」、九州大学工学部の先生から「カーボンニュートラル社会の実現とその先に向けた最先端化学」についてそれぞれ講義をしていただき、大学と新たな学問に出会うことができました。

2つ目はキャリアについて考える高1LHRです。探究したい学問を見つけ大学に進学することもあれば、将来従事したい職業を目指して大学へ進学する場合もあります。学問を求めて大学に行く場合においても大学の次のステップを意識して

おく必要があります。そのために、様々な職業で活躍しておられる方から、職場の様子や仕事内容を直接お聞きし、生徒が職業選択やキャリア形成の考え方について学ぶ機会としたいと考えています。1学期のLHR・総合学習の時間を利用して実施しました。今年はマイクロンメモリジャパン株式会社、オタフクソースホールディングス株式会社、広島県警察、NTT都市開発株式会社、株式会社電通西日本で働く方をお招きしました。すべての方のお話を聞けるといいのですが、時間が限られているため、5つの講演の中から時間差で3つを聞く形を取りました。1クラス40人程度と少ない人数でお話が出来たので、質問も出やすく楽しい雰囲気です。大学のその先の仕事について考えることができました。

この他にも進路指導部では東京大学見学ツアーや勉強合宿など、生徒が自分の将来を考えるきっかけを多く用意しています。しかし、生徒自身が本気になって考えないといくら機会を設けたところで意味はありません。生徒が本気で考え、学ぶよう担任や学年会、授業担当、関わるすべての教員で後押しをしています。



九州大学模擬講義の様子

## 幼稚園

## 自発的主体的活動の中に見られる育ち 園長 古重 歌織

幼児期における自発的主体的活動とは、子ども自らの中にある欲求能力の展開だと捉えています。それはまさしくゲーンズ幼稚園の保育に含まれる営みでもあります。

登園するや否や目的を持って遊びだす子どもや、友達を誘って活動に取り組む子ども。じっくりと様子を見てから遊びを探し出す姿や、周りから声をかけてもらうことを待っている姿、一人でじっくり、またのんびり、更にはぐっと集中するという姿もあります。その一つひとつの姿を尊重する為に、必要に応じた保育者の声掛けやかかわりを行うことに重きを置いています。個々に適したタイミングや、成長を促すきっかけになる場合もあれば、必要とされていなかったものであったと保育者自身が自分の行動を振り返り、次の関わりへと生かすこと。この繰り返しの中で、子ども自らが持つ力を存分に生かし、またその子自身の育つ力を周りの大人たちが信じて待つこと、それらが複雑に絡み合うように日々の生活を織りなしていくこと、それらのことは、遠回りのように感じられるかもしれませんが、行ったり来たりを繰り返しながらも確実に教育的意義を深められていると実感しています。

また人と人とが繋がり合う中、仲間関係が深まってくると、思いの相違や、うまく自分の気持ちを周りに伝えることができずトラブルが発生することも多々あります。そのことをマイナス

要因として受け止めるのではなく、意見を交わし合うことが互いの育ちを深めるチャンスだと捉えています。常に保育者は互いの思いを聴き取るよう、またひとつの出来事にはどのような背景があるのかを読み取るように努力しています。

担任一人でクラスを運営するという姿勢ではなく園全体で一人ひとりの子どもを見守れるようチームとなって共に育つ姿勢を大切にしています。

それには、十分に自由に遊ぶ時間が保障されることとクラスの集まりの時間に活動を共有し考えを聴き合うこと、その両輪で保育という営みが紡がれていくのです。

ここにこそ、自発的であり主体的な活動が生み出され、それは彼らのこれからの歩みの礎となり育ちの繋がりとなっていくのだと感じています。



共同活動の中で生み出される役割と達成感

大学

異文化理解入門

国際英語学科 Ágota Duró 栗津原 淳 大崎 美佳

「異文化理解入門」は2024年前期に国際英語学科の1年生向けに、栗津原 淳教授、大崎 美佳准教授、Ágota Duró助教の3名によって実施された科目です。目標は、平和と自己との関係を考え、「自己」「他者」「社会」との関係について学ぶ準備を促しながら、大学生や社会人に必須なクリティカル・シンキングの基礎を養うことです。4月から6月にかけて、栗津原教授は原爆と慰霊碑、Duró助教は「はだしのゲン」が伝える平和、大崎准教授は異なる国の視点から平和を考える講義を行いました。学生は教室での授業に加え、「折りづるひろば」や「原爆の子の像建立66周年記念式典」、8月5・6日の平和関連プログラムにも参加しました。8月5日、Duró助教が被害者・加害者の視点と在外被爆者の歴史を紹介し、西河内靖泰先生が差別について語り、広島市の元市長平岡敬氏が戦争体験を共有し、広島大学の松永京子准教授が

「核と植民地主義をめぐる文学と芸術」をテーマに講義を行いました。受講生は関心を持って講義を聴き、平岡氏に質問する学生もいました。6日には宗教センター主催の「キリスト教主義大学ジョイント8・6平和学習プログラム」に参加した他校の学生たちと、それぞれが受けてきた平和教育やこれから自分たちが取り組んでいく課題などのディスカッションを行いました。学生が提出した最終レポートからは、多くの者が平和について様々な視点から深く考えるようになった様子が見て取れます。



(文責:Ágota) 折りづるひろば

加計高校芸北分校で先生体験!

日本文化学科 出雲 俊江

8月1日、2日、国語科教員を目指す学生有志7名と、柚木先生、小松先生、出雲の10名で、広島県立加計高校芸北分校のサマーセミナーに参加しました。避暑地で知られる芸北。爽やかな風と青い山並みに、校舎が優しく包まれています。

芸北分校のサマーセミナーは、生徒の皆さんが勉強しながら進路を考える機会として、毎年全校挙げて行っておられる行事です。

学生のうち5名は、生徒グループにチューターとして入り、SHRを担当するなど、生徒さん達と共に時間を過ごしました。大学への進学、大学の学び、大学生活についてなど、話も弾んだようです。4年生の谷本千優さん、大学院生の桑原希羽さんは授業を担当。その場で俳句を作って句会を行うという授業は、どのクラスでも盛り上がりました。

放課後はクラブ活動を見学。そこではスケールの違う芸北分校の姿を見ることができました。

農業部は広い畑や温室で計画的な野菜栽培を行っており、リング畑は丁度袋掛けの時期でした。私たちも担当の生徒さんから説明を受けながら収穫や袋掛けを体験させて頂きました。ふと目を移せば真夏なのにスキー部が活動中。顧問の先生はなんとオリンピックチーム指導者で常勝チームなのだそう。体育館での神楽部の練習はすごい迫力です。高校生ながら各所に招かれて本格的公演の実力です。バレーボール部や野球部の練習も勢いがあって強そうでした。

夜は先生方とのバーベキューでした。学生も交えて、熱い教育

談義に花が咲きました。夜空には星がたくさん。文字通り降るようでした。

芸北分校にうかがうたび、「良い学校」とはという問いが頭に浮かびます。自立して主体性があり、明るく前向きな芸北分校の生徒さん。そして環境を活かしながらの様々な教育実践。理想的な学校の一つの形だと思えるからです。その芸北分校の先生方から女学院大学にお声かけいただき、今回の参加が実現しました。

温かい芸北分校の皆さんに癒やされながらのささやかな教師体験。教員志望の学生にとって、言葉にできないたくさんの方に触れられた濃い2日間となりました。



農業部 野菜の収穫



加計高校芸北分校の生徒さんと

グローバルフィールドワーク報告

生活デザイン学科 永野 晴康

「グローバルフィールドワーク」は、生活デザイン学科の科目で学んできた知識を基礎として、実際に現地でのフィールドワークを通して、海外の国や地域の公共政策、歴史、文化芸術、ビジネスなどについて幅広く学ぶプログラムです。今年度は、9月4日から12日まで、パリでの研修旅行を行いました(学生6名、引率教員1名)。

ルーブル美術館やオルセー美術館、ベルサイユ宮殿、オペラ座、サント・シャペル、コンシェルジュリーなどフランスを代表する美術館や歴史的建造物の訪問は、学芸員課程や社会教育主事課程に所属する学生にとっても、多くの学びとなりました。

国立文書館では、文書館の方々から館の歴史や所蔵する多くの貴重な資料の数々を説明していただきました。

研修旅行中はパラリンピック期間中であり、街中がパラリンピックのお祭りの雰囲気と、警備や立入制限などで秩序が保たれた雰囲気が併存していました。エッフェル塔の近くにある日本文化会館では、フランス人のスタッフからパリや東京のオリンピックに関する展示の説明を受けました。

フランスの文化芸術、多文化共生社会、グローバル化の現状を学ぶ非常に有意義な研修となりました。



国立文書館にて



## 大 学

## キッチンカー&amp;アグリプロジェクト 始動

管理栄養学科 妻木 陽子

管理栄養学科では4月より2つのプロジェクトを始めました。現在、1～3年生の約70名が参加しています。

キッチンカープロジェクトは、地域イベント等で学生が商品を調理、販売する活動です。これまでに、二重焼きやワッフルなどのメニューを考案し、販売しました。キッチンカーの特徴はどこへでも行ける点で、買い物弱者や被災地への支援もできます。キッチンカーの可能性を模索し、これからも地域や社会のニーズにあった商品開発を続けていきます。

アグリプロジェクトは、農作物の栽培や収穫、調理を通じて食の大切さや自然との共生を学ぶ活動です。プランター栽培から始め、今は小さな畑でも野菜やハーブを育てています。今年度は、あやめ祭での唐辛子販売や小学生と保護者対象の野菜を使ったピザ教室などの活動を行いました。今後も生産者の視点から食の大切さを伝える活動に取り組んでいきたいと考えています。

2025年度から管理栄養学科は「健康栄養コース」と「食品開発コース」に分かれ、より専門的に学べるようになります。これらのプロジェクトを通じて、学生は食の提案や栽培、ビジネスモデルを学びながら実践力を身につけていきます。



〈キッチンカープロジェクト〉  
地域イベントでワッフルを販売



〈アグリプロジェクト〉  
定期的な手入れと観察

## 第65回中・四国保育学生研究大会の当番校としての務め

児童教育学科 村上 智子

本学会場に、36校の学生と教員634名が参加した中・四国保育学生研究大会が開催されました。スタッフとして1～4年生が案内係、受付係、会場係に分かれて大会をサポートしました。また、開会式では児童教育学会役員が司会進行を担い、学生交歓会では3年生全員がアトラクションで雰囲気盛り上げました。

学生からは次のような感想が寄せられました。

「アトラクションは、3年生全員で長い時間をかけて作り上げ

ました。参加校の方々から温かい拍手を貰え、達成感や充実感がありました。本番はどの練習より良いものをお見せすることができたと感じています」「普段関わることのない他大学の方々の研究発表をたくさん拝見でき、とても刺激を受ける充実した大会でした」「自分にはない考えや保育に関する研究など様々な情報や意見を共有することができました。今回の保育学生研究大会は、自分にとってまた一つ成長することができた大きな経験となりました」



3年生による学生交歓会アトラクション



当番校代表あいさつ



研究発表の一場面

## 2024年度 秋季宗教強調週間

大学宗教委員長 栗津原 淳

10月15日(火)「キリスト教の時間」の特別講師としてお迎えした日本キリスト教団宮崎教会牧師、共愛幼稚園園長である張宇成(チャンウソン)先生は、ヨハネによる福音書14章1～6節から『私を信じなさい』と題してお話してくださいました。子どもと遊んだり、だっこしたりしながら「アタッチメント」を実践し、成長を見つめている実例を通して、人は自分を受け入れて愛してくれる存在があるからこそ、安心して遠い所へ旅立ち、成長していけるとお話くださいました。

翌16日(水)の特別講演会では、ルカによる福音書15章11～24節より『絶対に戻れる場所がある安心感』と題してお話をしてくださいました。ご本人曰く「学校生活、社会生活に適應できない社会不適合者としてダラダラと生き続け、人生の回り道、寄り道をしながらも、30歳で同志社大学神学部に入學、同大学院神学研究科(前期)を修了し、東京の靈南坂教会を経て、

現在は宮崎で牧会をしておられる波乱万丈のお話でした。その人生の中でいつも誰かに支えられ、自分の居場所が作られていることの中に、不思議な神様の働きを感じておられる様子でした。学生からは、「ネガティブに捉えがちな日々を過ごしていたが、前向きに生きていこうと思えた」といった感想が寄せられました。



特別講演会 張宇成先生





大 学

第75回あやめ祭

総合学生支援センター事務課長 今井 妙

「第75回あやめ祭」は11月10日(日)に開催されました。午後からは曇りがちでしたがなんとか天気も保って1,500人あまりの来場がありました。

今年のあやめ祭のテーマは「黎明～Magic Hour～」です。「黎明」とは「夜明け」を意味しますが、このテーマを決めたあやめ祭実行委員たちによると、自分たちは新型コロナウイルス感染症以前の本学の大学祭を見たことがなく、伝統のようなものを知らない、しかし、だからこそ自分たちが新しい伝統をつくっていくのではないかという「始まり」の気持ちを表したのだそうです。

オープニングはフォークソング部、続いてメインステージでダンス部のパフォーマンスが始まり、吹奏楽部の演奏、吉本興業によるお笑いステージ、生活デザイン学科の学生が製作した衣装による恒例の「ファッションショー」と続きました。チャペルで行われたクワイアのコンサートや、今年初となる1年生が準備した自分たちの学び紹介の

展示はご家族の来場もあり大変な賑わいでした。クラブやゼミ、教職員も協力しての様々な模擬店、昨年子どもの来場が多かったことで用意した「子ども縁日ブース」、自治会アイリスが招いた専門業者による本格的おけ屋敷にも大勢の来場がありました。さらには広島FM「大窪シゲキの9ジラジ」特設ブース、広島市就労支援センターのマルシェ、お楽しみ抽選会など、様々な企画を用意して来場者楽しんでいただけた一日となったと思います。皆さまのご支援ご協力に感謝いたします。



フォークソング部野外ステージ



ファッションショー



今年も沢山の方にご来場いただきました

ハロウィンフェスタ ～ちょっと早めのNight Fever～ 開催!

管理栄養学科 妻木 陽子

今年は10月25日に開催され、大いに盛り上がりました。年々イベント内容が充実し、学生たちの熱意が感じられます。

日本文化学科3年 相原 歩海さん

先輩から引き継ぎ、今年で3年目を迎えたハロウィンフェスタ。昨年のご意見や反省点を踏まえ、コスプレコンテストをQRコード制にするなど、より多くの方にご参加いただけるよう工夫しました。また、イベント当日はリーダーとサブリーダーの3年生が実習期間中により不在でしたが、後輩たちが自分たちで考え、協力し合い、主体的にイベントの運営を行っていました。

来年以降も、広島女学院大学ならではの、多くの方楽しんでいただける、そんな一大イベントとして続いていくことを心から願っています。



プロジェクトメンバー



教職員、学生みんなでパレード

2024年度ゲース学術奨励賞

ゲース学術奨励賞は、本学の校母ナニ・ベツ・ゲース先生の遺徳を偲び制定された賞で、建学の精神を体現し学業において優秀な学生を、各学科の4年生から1名ずつ表彰するものです。

2024年度の実賞者は次の方々です。

- |        |          |    |    |
|--------|----------|----|----|
| 人文学部   | 国際英語学科   | 小國 | 桃佳 |
|        | 日本文化学科   | 柏原 | 雪乃 |
| 人間生活学部 | 生活デザイン学科 | 山内 | 冴夏 |
|        | 管理栄養学科   | 石戸 | 晴菜 |
|        | 児童教育学科   | 徳光 | 未悠 |



10月8日 ゲース学術奨励賞授与式にて



## 中学高等学校

### 女学院生とコラボ JT B 旅行商品販売

探究活動推進委員会 安宅 弘展

広島女学院生とJT Bが共同して開発した団体向けプランが今年3月に商品化されました!

商品名は「広島・江田島の未来をつなぐ3R Reconsider【SDGsの理解を深める】・Reborn【海ゴミの再生】・Regional exchange【地域交流】」です。

このツアー企画は、2022年度の観光甲子園SDGs修学旅行部門で本校生徒が準グランプリを獲得したことをきっかけにつくられたものです。これは、生徒たちが実際に何度も現地を訪れ、市役所や市議会議員、NGOなど多くの方々の協力のもと、みんなでアイデアを出し合い完成させた、思いのこもったプランです。

準グランプリを獲得してから約1年、JT Bと商品化に向けて試行錯誤を繰り返してきました。実際に広島女学院の生徒とモニターツアーの実施も行い、更により良いものになりましたと思います。

地元特産の牡蠣をいただくとともに、ビーチクリーン活動を

行いながら海ゴミの種類を学び、海洋プラスチックゴミを使用した万華鏡を制作するなど、本プログラムでの体験を通じて、江田島市の課題である海洋プラスチックゴミについて学び、「美しい自然景観を守り続けるために何ができるのか」を考える内容となっています。

このプランを皆さんに体験していただき、環境問題を身近に感じ、楽しくSDGsへの理解を深めていただければと思います。ぜひご利用ください。



JTB江田島旅行ホームページより

### 藤田一照先生 文化講演会

国語科主任 那須 泰

6月18日、高校生対象の文化講演会が開催されました。講師は、曹洞宗の僧侶である藤田一照先生。講演のタイトルは「Live Out Your Unique Self ~自分独自の人生を創造する~」でした。「無意識」を「意識」することで、身心(=自己)にすでに備わっている自己調整能力や自己治癒能力を発見し、信頼し、発揮し、育てていくことの重要性を説いてくださいました。

一照先生は、灘高校を卒業後、東京大学教育学部教育心理学科を経て、大学院で発達心理学を専攻。院生時代に坐禅に出会い、28歳で博士課程を中退して禅道場に入山、29歳で得度するといった、特異な経歴の持ち主です。どういう経緯でこの道を歩んできたのか、ご家族の写真を交えながらの講演で、あっという間に90分が過ぎていきました。

一照先生は、禅との出会いによって「人生は自分に何をさせ

たがっているのか?」という視点から、「私を通して生きたいと思っている人生」に対して素直に耳を傾けるようになったとおっしゃっていました。これは、キリスト教における「ミッション(使命)」に通じる生き方です。私たちが

自らの使命を生き、「自分独自の人生を創造する」。宗教の枠を超えた普遍的な人生観に触れ、改めて自らの生き方を考える契機となる講演会でした。



文化講演会 藤田一照先生

### 第37回縮景園原爆犠牲者慰霊供養式

中学生徒会顧問 前 瑛子

縮景園でひっそり行われている原爆犠牲者のための供養式をご存知の方は少ないかもしれません。1987年に64体の遺骨が発見されて以来、庭園を目の前に臨む清風館で毎年8月1日に厳かに執り行われています。関係者や地域住民ら計100人ほどが集い、女学院中学も幟町小、幟町中の生徒と共に毎年参列していますが、今年は平和への誓いを述べる機会をいただきました。上田宗箇流の献茶、生田流の献曲と錚々たる面々が哀悼の意を示す中、中学3年、山田結夢さんと白石愛さんは堂々と平和への誓いを述べました。以下誓いの一部を掲載します。

私のひいおばあちゃんは原爆が落ちたときに、爆風で家が崩れる中、幼い息子達を守り、家の下敷きとなり、亡くなったと知りました。私はそのことを聞き、ひいおばあちゃんが命がけでつないでくれたバトンのおかげで私はここににいるという感じました。

私の家の近くには安楽寺というお寺があり、そこには被爆樹木である大イチョウがあります。原爆により、幹を残して消失してしまいましたが、翌年には新芽が芽吹き、今でも毎年秋になるときれいなイチョウを見ることができます。今では当たり前にも身近にあるものが、過去からずっと繋がっていること。なにか一つでも欠けていたら今の私達はいなかったということを毎年空を覆い尽くす黄色いイチョウの

木を見るたびに思います。

戦時中、広島女学院は縮景園を第一避難所としていたため、女学院の被爆証言集の中に縮景園に逃げたという記述が多くあります。「泉邸は怪我をした人、焼けただれた人、すでにここに来て動けなくなった人、人、人。この世の地獄絵です。」

今、目の前に広がる美しい庭園を前にして思います。現在の平和な広島を、私たちが守っていかなければいけないと。渡されたバトンをしっかり握りしめて、走り続けていこうと思います。

2人は日ごろ、生徒会として生徒集会や文化祭の裏方として奮闘しています。この貴重な機会のおかげで、平生は話すことのない事柄について深く思慮することができました。脈々と引き継がれる恒久平和の女学院魂を垣間見ることができ教員として感無量でした。



縮景園の前で(左から山田、白石)

## 中学高等学校

### 宗教行事

宗教教育委員会 金 清洛

#### 平和を祈る週(6/17~6/22)

6月22日(土)の特別礼拝では、平和のためのヒロシマ通訳者グループ代表の小倉桂子先生をお迎えしました。小倉先生は、8歳のときに爆心地から2.4キロの牛田町で被爆されました。その後、広島女学院中学高等学校に入学し、在校中には生徒会役員(5人委員)を務め、YWCA部に所属されていました。

礼拝では、まず母校で語ることの喜びについてお話くださいました。戦時下を生きてこられた小倉先生は、こうしてみんなで制服を着て集うことができていることに「平和を感じる」と仰られ、一方で、今生きておられる被爆者の方たちが抱える「死ぬのが怖い」という思いについても語ってくださいました。被爆して先に亡くなった方たちに「核兵器なくなった?」と尋ねられた時、どう答えればよいのか、戦いの絶えないこの世界の現状をどう伝えたらよいのかと葛藤されているそうです。だからこそ、次の世代を担う私たちに、被爆体験を語り、核兵器の恐ろしさを伝えてくださっているそうです。小倉先生は「バトンを渡しました」と力強く締めくくってください、私たちは広島に生きる者として、そのバトンを受け継いでいきたいと思われました。

週間中、上空通路に各クラスで作成した平和へのメッセージを展示した「女学院平和ロード」を作りました。また、登校時に各学年の礼拝委員の生徒が、校門前で挨拶を行いました。昨年に続く校門での挨拶を通して、お互いの笑顔が溢れる光景が多く見られました。また、中学では様々な屋の集いが行われました。高校の屋の集いでは、3年生が3日間にわたり、昨年の沖縄修学旅行についてプレゼンを行いました。各コース、自分の学んだことや感じたことを、修学旅行を控える高2生・高1生に伝えてくれました。2年生宗教委員企画として、「聖☆おにいさんをみんなで見よう!」を実施しました。宗教が対立することもあるこの世界ですが、ブッダとイエスが「平和」に暮らすという作品で、大講義室は大きな笑いに包まれました。1年の宗教委員企画では「先生インタビュー」を行い、「平和」というテーマで一句という難題にも答えていただきました。

#### 中1バイブルデイキャンプ(10/3 4限~6限)

秋の行事週間、中1はバイブル・デイ・キャンプを行いました。日頃から聖書の授業や毎日の礼拝で聖書をとおして自分を見つめ、様々なことについて思索する機会をもっていますが、意外と聖書をまとめて学ぶ機会が少ないものです。バイブル・デイ・キャンプでは、ルカによる福音書を忠実に映画化したと言われる『ジーザス』を鑑賞し、イエス様の生涯について学びました。その後ゴスペル礼拝を献げました。約50名以上の生徒が演奏や

歌、踊り、スタッフとして「賛美せよ」「恵み」というゴスペル曲を準備してくれ、中1の生徒・教員の皆が讃美する礼拝となりました。自分を見つめて思索に向かう日頃の礼拝と異なり、喜びと感謝をともにしながら讃美するという豊かで貴重な礼拝のときが与えられました。

#### キリスト教強調週間(11/11~16)

主題「志をつなぐ」、主題聖句ルカによる福音書10章37節「そこで、イエスは言われた。『行って、あなたも同じようにしなさい。』」のもと、11月12日は通常の授業に替えて、主題講演と学年ごとの特別プログラムが実施されました。主題講演講師の藤田千代子さんは鹿児島出身で徳州会病院(福岡市)での勤務を経て、1990年9月より中村哲医師の赴任先であったパキスタン・ペシャワールのミッション病院へ看護師として赴任されました。以降、医療活動を始め、井戸掘り、食料配給、その後の用水路事業など、一貫して中村医師の現地活動を支えてきました。1998年日本の寄付でペシャワールに建てられたPMS基地病院(総院長・中村哲)では、院長代理の責務を果たし、現在ペシャワール会PMS支援室室長およびPMS総院長補佐として、現地活動を支えています。特に2022年にはフローレンス・ナイチンゲール記章を受章され、その活動が評価されました。

今回の講演で藤田さんは、中村哲さんとの活動やアフガニスタンの現状について語ってくださいました。日本に住む私たちは、アフガニスタンの現状についてほとんど何も知らないということの思い知らされました。中村哲さんは常に「可能性を感じるなら、やってくれ」と言われ、実際に行動を起こす方だったそうです。藤田さんのお話を聞いた私たちは、様々な文化を持つ人々が生きるこの社会で、隣人と共に生きる方法を模索し、イエスさまが教えられた「行って、同じように」行動していかなければならないと思われました。

学年別活動では、「志をつなぐ」というテーマで、社会のさまざまな分野の講師の先生との出会いや具体的実践活動を通して考える時間を持ちました。

週間中は、平和を祈る週同様に生徒委員会による様々な活動が行われました。特に上空通路では「女学院と志」をテーマとした各クラス作品の展示が行われ、各クラスの作品と共に、先生たちの志が記された作品も展示され、大勢の生徒が足を止めて見ていました。

16日(土)の閉会礼拝では、各学年から2名の生徒がキリスト教強調週間を通しての感想を発表し、それぞれが得たものを分かち合い、女学院の豊かさを再び共感することができました。



平和を祈る週 小倉桂子さん



中1バイブルデイキャンプ



キリスト教強調週間 藤田千代子さん



## 中学高等学校

### 中高合同文化祭

高校生徒会顧問 小田 仁美

11月3日(日・祝)に中高合同文化祭が開催されました。今年は、13年ぶりの2日間開催の予定で準備を進めていましたが、2日(土)は大雨のため臨時休校となりました。2日間開催とした目的は、第一に、来校者・生徒ともにゆとりのあるなかで文化祭を楽しめるようにすること、第二に、生徒同士が発表を見て、お互いに認め合えるような機会を作ることでした。2日の午前中は、中学・高校それぞれ約90分間の開会式のなかで部活動2団体の公演を鑑賞する予定で、楽しみにしているという声が生徒たちから多く聞かれました。また、午後はホールのみを一般公開とし、校内は在校生が一般公開に先立って発表を楽しむ予定としていました。楽しみにしていた2日の内容は実現することができませんでしたが、翌3日は秋晴れに恵まれて、文化祭を行うことができました。

来校者数は約3800名。昨年より入場者を抑えたことにより、落ち着いた雰囲気のなか、ゆっくりと発表を見て回ることができました。ホールでは文化部が、これまでの練習の成果を披露していきます。グラウンドでは、高校運動部が模擬店をしてお客さん呼び込む声が響き、活気にあふれていました。体育館では、中学運動部の公開試合が行われ、得点のたびに歓声が上がっていました。1年C組・E組の「縁日」では、射的や輪投げなど手作り感あふれる楽しいゲームで来場者をもてなしていました。そこには多くの生徒・来場者の笑顔がありました。また、めずらしい発表内容としては、1年D組はカジノ、2年A組は占いを発表しました。高校生が、カジノではディーラー、占いでは占い師に扮します。お客さんを相手に堂々と案内する高校生の姿に、中学生は憧れを抱いていました。文化祭には、日ごろの学びの発表も多くあります。中学生・高校生が授業で作った作品の展示や海外研修での学びを発表している教室がありました。また、今年は数年ぶりにあやめ賞を復活させました。HR発表部門では2年C組・E組のおばけ屋敷、部活動(教室発表)部門では高校美術部が栄光に輝きました。

2日に発表を予定していた中学マンドリン部、中学演劇部、中高吹奏楽部、高校ダンス部は、後日の放課後に振替公演を行いました。発表が2週間延びた団体もありましたが、よりよいものを目指して

練習を続け、どの団体も素晴らしい発表をしてくださいました。客席からのアンコールに応えるなど、アットホームで和やかな雰囲気のなかでの発表となりました。

末筆となりましたが、PTA、お父さんの会、同窓会の多大なるご協力のもと、文化祭を終えることができました。この場を借りて、お礼申し上げます。ありがとうございました。



お客さんと楽しむ「VS女学院」



中学理科部化学班の実験のようす

### クリスマス諸行事

宗教教育委員会 金 清洛

中学校讃美歌コンクールは、クリスマスへの準備として行われる学校行事です。数か月前から音楽科の先生のご指導のもと、クラス一同が心を合わせ、練習を積み重ねた努力が美しいハーモニーを生み、クリスマスの喜びを共に分かち合えるような恵みの時でした。

中学クリスマス礼拝は、讃美歌コンクール各学年課題曲の合唱を行いました。ボリュームあるハーモニーがホールに響きわたり、学年毎の合唱がまさに天使の歌声のようでした。YWCA部(ハンドベル演奏)、合唱部、放送部(聖書朗読)の生徒たちが奉仕してくれました。高校クリスマス礼拝は5年ぶりに、音楽部、音楽選択生、吹奏楽部、オーケストラ同好会による合唱や演奏、放送部による聖書朗読などがあり、最後は、全校生徒のハレルヤ合唱がホールいっぱいに響きわたりました。夜の「女学院クリスマス」は一般公開で行い、在校生と保護者、卒業生、受験を考えている小学生と保護者や地域の方々を対象として事前申し込み制で実施しました。ホール1階席が埋まり、2階席まで参加者がありました。高校宗教委員・高校放送部・中高YWCA部、高校生有志による聖歌隊が協力してくれました。

中高のクリスマス礼拝は、大嶋良兵牧師(国立療養所長島

愛生園内長島曙教会)が、夜の女学院クリスマスは、杉本拓哉牧師(江波キリスト教会)がメッセージを担当していただき、イエス・キリストの誕生を通して示されたクリスマスの真の意味について語って下さいました。

今年もイエス・キリストの誕生を祝うクリスマス礼拝を通して、神と共に働くものである女学院の豊かさを祝うひと時でした。



女学院クリスマス



幼稚園

鈴木道子先生へ感謝を込めて

園長 古重 歌織

広島女学院ゲース幼稚園元園長、敬愛する鈴木道子先生が、2024年5月21日(火)神様のもとに召されました。

鈴木先生は私にとって、今の自分の歩みをつくって下さったかけがえのない存在、恩師の一人であります。私自身がゲース幼稚園に在園していた時の担任であった鈴木先生は、保育者が環境の一部であることに重きを置き、美的な感覚を研ぎ澄ますことへも細やかに配慮され、子どもたちに本物を手渡して下さい、一人ひとりの個性を大切に下さる方であったと繰り返し母から聞かされていました。

園の教職員として共に働く中においては、常に子どもの視点に立って教育をつくり出す姿勢を貫き、時には厳しく教員を指導して下さい、同時に教職員一人ひとりのメンタルケアにも心配りを怠らない方でもありました。また、保育の中に保護者のタレントを生かす活動を取り入れ、園の保育に繋がる有識者とのパイプも積極的に作って下さいました。

そして何より、キリスト教保育の実践者であり、常に子どもたち、保護者、教職員に安心して歩める道を示し、後進の教育にも全力を注がれました。キリスト教保育連盟においても重責を担いつつも、いつも生き生きとどのような業務も楽しんでおられる姿勢が印象的でした。先生の働きは、ゲース幼稚園退任後も、多くのキリスト教園で園長としての働きを担われ園の教育活動を支え発展へと導かれました。

地上での神様から与えられたお仕事を丁寧に、そして周りの人々と学びを分かち合い、そして常に学びを深めてお過ごしになられた鈴木先生

の背中を追いつつそして足跡を辿りながら一日一日を大切に歩ませていただきたいと思っています。

鈴木先生、お疲れ様でした。そしてたくさんの宝物を下させて頂きありがとうございました。



幼子の中であって

園舎屋根がきれいになりました

主事 久保木 裕子

2024年に多大なる寄付金をいただき、その一部を予てより切望していた幼稚園園舎の屋根の修繕に充てさせていただきました。園舎を建て替えてから30年近く経った昨今は度々の雨漏りにも悩まされていたところでもあります。子どもたちの為に心を込めてご支援して下さった方や関係者の皆様心より深く感謝申し上げます。

修繕工事は安全に、また保育に制限がないよう7月下旬から8月末までの夏休み期間中に施工いたしました。連日の酷暑の中、屋根の上ではさらに温度も高く、大変な作業にも関わらず丁寧に行ってくださいました。改めて携わって下さった方々にも深く感謝申し上げます。

美しく落ち着いた赤い屋根の下では今日も子どもたちの元気に遊ぶ姿が絶えません。

たくさんの方々のお支えにいつも感謝を覚え、日々豊かな保育の歩みを進めてまいりたいと思います。



真夏の炎天下での作業



朱色の屋根が青空に美しく映えます

みんなでスポーツ体験

教諭 柳田 皓佑

食欲の秋、読書の秋、そしてスポーツの秋、過ごしやすい気候の中、年長児は去年に引き続きマツダスカイアクティヴズ広島の選手に来ていただきラグビー体験を、年中児は広島県サッカー協会主催のサッカー体験を、広いグラウンドで体を思いっきり動かして楽しみました。

まずは体操やしっぽ取りをして緊張していた心と体がほぐれてきてからボールを真上に投げてみたり手や足を使って転がしてみたりするなど、体の色々な部分を使ってボールと触れ合いました。

最後には仲間の声援が飛び交う中、ラグビー体験では、選手にタックルを試みたり、サッカー体験では、友だちと競いながら必死にボールを追いかけてシュートを打ったりするなど、仲間と共にチームスポーツを楽しみました。また、競技の事だけでなく、向かい合ってお辞儀をするなど礼儀を守る大切さについても

教えていただきました。

体験が終わってからも園庭ではラグビーやサッカーが盛り上がりを見せ賑わっています。

神さま、元気な体と友だちをありがとうございます。



どこまで高く上げられるかな



上手に捕れるかドキドキ



## 幼稚園

## 平和の祈り

教諭 梅田 桃香

子どもたちは日々、園生活を過ごす中で友だちと互いに考えを出し合い協力して遊びをつくり出していますが、集団生活では様々なことが起こります。嬉しいこと、思い通りにいくことばかりではなく、嫌なこと、悲しいこともあります。時にはそれが原因で相手を怒り、怒らせ、喧嘩や傷つけることもあります。そのような時は、傍にいる友だちや保育者と共にどうしたら良いのか考え、相手を思いやったり、許したり、自分の悪いところを認めてごめん



原爆ドームの前に、戦争の悲惨さを感じる子どもたち

なさいと謝ったりする経験を繰り返しながら、友だちとの繋がりを深めています。一人ひとりが互いに認め合い、許し合えるような世界になると世界平和に近づくのでしょうか。そんな毎日を過ごす中、年長組では今年も祈りを込めて作った折り鶴を原爆の子の像へ捧げに行きまいりました。これまで子どもたちは戦争のお話を聞いたり、ヒロシマの出来事を聞く中で戦争の悲惨さ、原子爆弾の恐ろしさ、今でも続く悲しみや苦しみがあることを知りました。『平和ってなんだろう?』と、遠く離れた人々のことにも思いを馳せながら考え続け、小さな心はいつも平和を願っています。



世界中からたくさんの人たちの願いが届けられているんだね

## 秋の自然の中で

教諭 川西 晴奈

園庭の木々が色とりどりの紅葉に包まれ自然の美しさを身近に感じられる秋。銀杏の葉っぱが沢山落ち銀杏絨毯が敷かれ、子どもたちはその銀杏の葉っぱを両手いっぱい集めて投げ上げ銀杏シャワーを浴びたり、フライパンで炒めて「いらっしゃいませ〜〇〇はいかがですか?」とお店屋さんごっこをしたり、銀杏花束を作りそれを友だちにプレゼントしたりする姿も見ることができました。秋の自然が遊びだけでなく、子どもたち同士の繋がりにもそっと手を差し伸べてくれているようです。また森ではどんぐりや松ぼっくり集めに夢中で「こんなに大きなどんぐりがあったよ」「このどんぐりは磨くと光ったよ!」「カラカラと音がするけれど、どんぐり虫出てくるかな?」と一つのどんぐりでも感じる事は一つ

だけではなく、沢山の発見がありました。「なににな?」「見せて!」とそれをみんなで共有するとまた新しい気付きも見付き、嬉しい秋の自然には沢山の繋がりと発見がありました。



綺麗な銀杏のお風呂みたいだね

## クリスマス

教諭 鶴田 さと

感謝と喜びで満ち溢れるクリスマス。幼稚園では教会歴より早めのアドベントに入り、ろうそくの灯りがひとつ増えるごとにクリスマスを迎える喜びを感じて過ごしています。子どもたちは、イエス様のお生まれになるまでのお話を親しんで聴いたり、クリスマスの歌やさんびかを声を合わせて歌ったりすることにも楽しさを感じているようです。特に、年長児はクリスマス礼拝の中で降誕劇をするという神さまから与えられた大切なお仕事も担っています。誰が何の役をするのか何度も話し合いを重ねて劇をつくりあげています。それぞれ思いをもってそれぞれの役割を果たし、そして年中・年少児の子どもたちは聖歌隊としてみんなで作

あげるページェント、それはそこに集う子どもも大人も心が温くなる豊かな時間でした。

また、クリスマス礼拝の後には、祝会が開かれ、年長組は砂本記念講堂で、年中、年少組の子どもたちはそれぞれのクラスで、おうちの方へ心を込めてつくった贈り物を一人ひとり大切に手渡し、喜びを分かち合う時となりました。

クリスマス、子どもたちは、それぞれの家庭で神さまの愛に包まれながら豊かな時を過ごしたことと思います。その様な中でも、私たちは周りの人や世界の人々が抱える争いや飢え、悲しみなどの痛みに向き、暗い世を照らすたった一つの希望の光として神さまが私たちにくださったイエス様のことを思いながら祈り続けていく者でありたいと願っています。



私たちの宝物を捧げます



心のこもったプレゼント「メリークリスマス!」

法人

寄附

1月10日受付分まで(順不同・敬称略)

広島女学院大学のために

102,599円 広島女学院大学教職員テニス同好会  
三好 信吾

中高教育充実のために

200,000円 株式会社もみじ銀行

130,000円 松本 敬之

50,000円 戸田 潤子

30,000円 山地 佐和子

15,000円 41期卒業生同窓会

10,000円 加藤 弘輝

中高平和教育のために

20,000円 前田 瑞枝

ゲース幼稚園運営・発展のために

2,018,540円 鈴木 道子

広島女学院メソジスト女性局奨学金給付型として

1,000,000円 公益財団法人ウェスレー財団

ゲース奨学金として

800,000円 広島女学院同窓会

教育研究施設・設備の充実

50,000円 戸田 潤子

グローバル教育の発展・充実

30,000円 周藤 玲奈

被爆ヴァイオリンの維持・修繕のために

20,000円 一般社団法人ヒロシマ国際作家協会

10,000円 さいき文化ホール運営協議会

10,000円 株式会社中国新聞社

5,000円 日本基督教団上下教会

5,000円 (公財)AFS日本協会 広島支部

ガウン・帽子・フード保管料として

285,065円 広島女学院大学協力会

アイリスセンター維持のため

600,000円 広島女学院同窓会

VISHバスキャッチシステム年間利用料として

118,800円 広島女学院ゲース幼稚園みぎわ会

卒園記念品として(2023年度)

ソフトエッジ大型箱積木 広島女学院ゲース幼稚園みぎわ会

寄贈図書として

オリーブのロザリオ 宮原 洋治

被爆79年平和祈念式

2024年8月6日、広島女学院中学高等学校ゲースホールにて被爆79年広島女学院平和祈念式が執り行われました。慰霊碑に刻まれた女学院の生徒・教職員350名をはじめ、原爆の犠牲となった方々を追悼し、参加者一同が共に平和を祈る礼拝を捧げました。

人事

【昇任】…………… 2024.10.1付

三村 麻由美(大学総合学生支援センター事務課健康管理監/法人事務局・大学管理部総務課健康管理監)

【退職】…………… 2024.5.31付

中嶋 知子(法人事務局・大学経営企画部人事・会計課主任)

西田 裕彦(大学入試・広報センター入試・広報課課長代理)

…………… 2024.9.30付

石田 知世(大学入試・広報センター入試・広報課職員)

訃報

堀尾 純生 様(元大学職員) 2024.5.4

正木 昭子 様(元中高社会科教諭) 2024.6.22

松尾 信孝 様(広島女学院顧問) 2024.8.15

黒瀬 真一郎 様(元理事長・院長 元校長) 2025.1.17

同窓会からのお知らせ

2025年ホームカミングデー

テーマ『Shine! Join! JOGAKUIN ～そして未来へ～』

●日時：2025年4月26日(土) 10:30～13:30

●場所：リーガロイヤルホテル広島

●会費：10,000円

被爆80年記念

「一2025 平和への祈り」開催のお知らせ

●日時：2025年8月2日(土) 10:30～12:00

●場所：広島女学院中学高等学校ゲースホール

お問い合わせ/同窓会事務局

TEL・FAX：082-221-1059

(月)～(金) 10:00～15:00



こちらから  
アクセス  
いただけます

ご寄付のお願い

本学院はクレジットカード決済に対応したインターネットからの寄付金募集を行っております。皆さまには引き続き格別のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。詳細は学校法人広島女学院ホームページ(<https://www.hju.ac.jp/houjin/donation/>)をご覧ください。

お問い合わせ/総務課(会計担当)

TEL：082-228-0387

こちらから  
アクセス  
いただけます



編集後記

今回は「広島女学院のキャリア教育」を特集しました。時代の変化に伴い、キャリアのあり方もますます多様化しています。同じような道を歩む人がいないこの時代、自分に合ったロールモデルを見つけることは容易ではありません。女学院の多彩な取り組みを通じて、園児、生徒、学生たちが自ら道を切り拓く力を身につけ、力強く前に進んでいけることを願っています。(大学 一色 舞子)